

チャノキイロアザミウマ情報第2号 (カンキツ)

令和4年7月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

一部地域で多く誘殺されています

1 発生状況

カンキツほ場に設置した黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ成虫の誘殺数は、蒲郡市では多く、南知多町では平年並の状況です(図1)。

6月下旬にカンキツ22ほ場のは場周囲における本種の生息数(イヌマキ(防風垣)10新梢の払い落とし虫数)は、平均7.95頭(平年13.96頭、前年6.77頭)で平年並です。しかし、生息数が多いほ場が確認されているため注意が必要です。

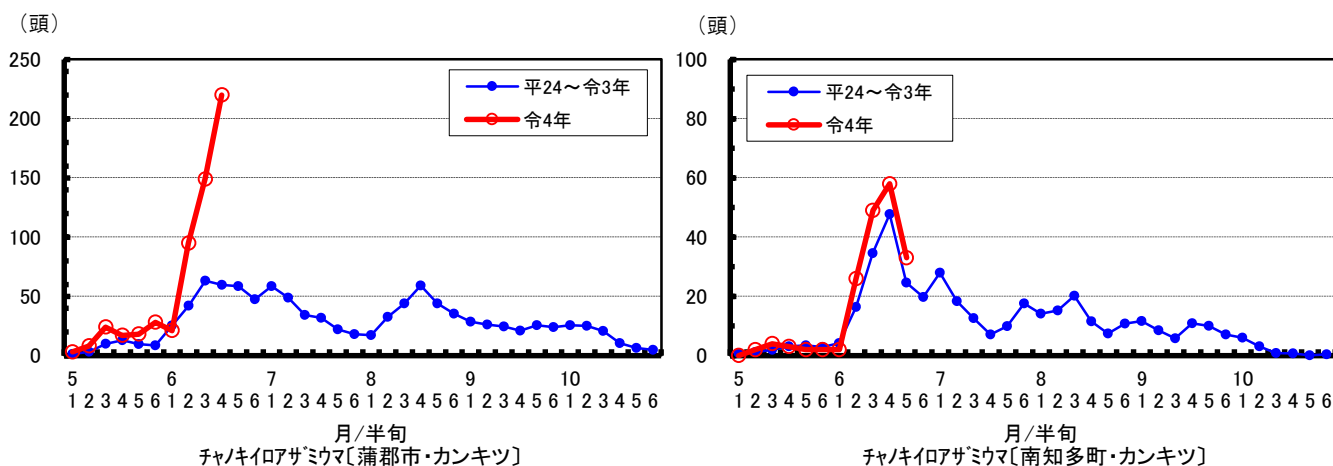


図1 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ成虫誘殺状況 (カンキツ)

2 チャノキイロアザミウマについて

ウンシュウミカンでは、本種が6月から7月に加害すると、果梗部に灰色～灰褐色のリング状の傷が生じます(図2)。また、7月から9月に本種が加害すると果側部に灰褐色～褐色の雲形あるいは放射状の傷を生じます。

本種は寄主範囲が広く、イヌマキやサングジュ、チャ、ツバキにも好んで寄生するので、これらを防風垣にしているほ場や近くにこれらの植物が植栽されているほ場では被害を受けやすくなります。このため、周辺の寄主植物の発生状況にも注意しましょう。

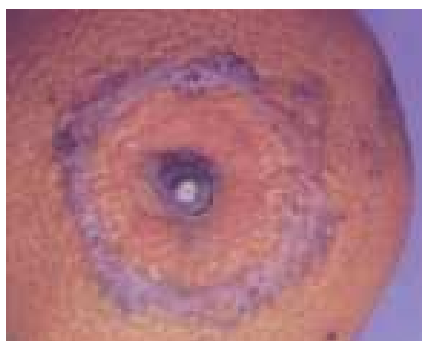


図2 カンキツにおける被害

3 発生ピークの予測と防除

本種は成虫の発生ピーク時期が防除適期です。有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第3世代成虫（中山間部に位置する稲武は第2世代成虫）の発生ピーク予測日は、6月30日から7月8日で、前年とほぼ同時期と予測します（表）。発生の多いほ場では、表の成虫発生ピーク時期にコルト顆粒水和剤、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

なお、6月30日名古屋地方気象台発表の1か月予報では、向こう1か月の平均気温は高いと予測されており、ピーク予測日が早くなる可能性があります。

また、東海地方では、6月27日頃に梅雨明けしたとみられることから、今後発生量が増える可能性があります。今後の発生状況に十分注意しましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第3世代	7/5	7/5	6/30	7/2	7/5	7/6	7/4	7/4	7/8	7/5	第2世代 7/5
(前年)	7/6	7/5	7/1	7/1	7/5	7/6	7/3	7/4	7/10	7/3	(前年) 7/8
前年差	1日早	±0	1日早	1日遅	±0	±0	1日遅	±0	2日遅	2日遅	前年差 3日早
第4世代	7/23	7/24	7/19	7/20	7/23	7/24	7/22	7/23	7/27	7/24	第3世代 7/28

各地のアメダス平均気温から予測。

6月30日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

前年の第2世代は、前年気温の実測値を用いて計算。